

まつぶしまちじしん 松伏町の地震について

地震は突然、起きます。毎日の生活で、地震が起きた時にどうするか考えておくことが大切です。地震のことを勉強してください。地震ハザードマップを使って、地震が起きた時に落ち着いて行動できるように準備してください。

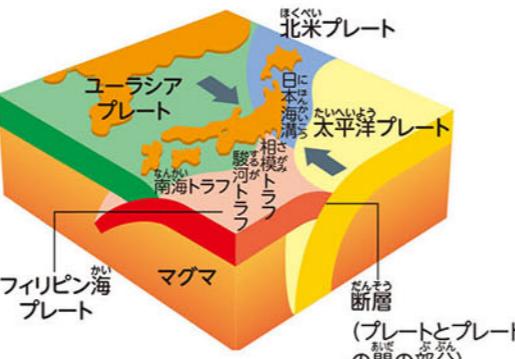
まつぶしまちじしん 松伏町で地震が起きたら、どんな被害がでる？

埼玉県が2012年・2013年に「埼玉県地震被害想定調査」をしました。松伏町に一番大きな被害ができる地震は「茨城県南部地震」でした。(詳しいことは下に書いてあります) この地震が起きると、松伏町の震度(揺れる強さ)は一番強く6強です。次のような被害がでます。

死んだ人の数	4人(冬の午前5時・風速8m/s)	電気がつかない家(地震のすぐあと・火事なしの場合)…7,877世帯
ケガをした人数	65人(冬の午前5時・風速8m/s)	電話がつながらなくなる家(※)…44回線、不通率0.34%
地面がやわらかくなる場所	やや高い27.8%・高い47.3%	携帯電話がつながらなくなる割合(※)…停電率11.7%、不通率0.3%
全部にわれた家の数(離れた地面がやわらかくなる)	259棟	都市ガスが使えなくなる家や建物…使えなくなる家1,970件(都市ガスが止まる確率100%)
一部、壊れた家の数(離れた地面がやわらかくなる)	754棟	水が出なくなる家(地震の1日後)…2,822世帯
火事で燃えた家の数	29棟(※)	下水道の管が壊れて使えなくなる人…6,628人
※冬の午後6時・風速8m/s		

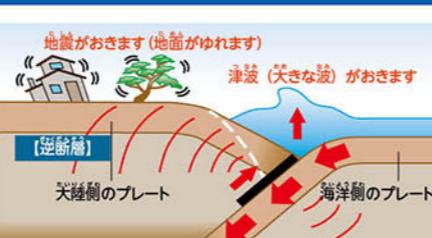
起きるかもしれない地震のこと

日本列島の周りには、右の図のような4つのプレート(板の形をしたかたい部分)があります。1年間に数センチの速さで同じ方向に動いています。プレートどうしが動くことで、プレートとプレートの間で「ひずみ」ができます。これが地震をおこす原因です。日本では2種類(海溝型と活断層型)の地震がおこっています。



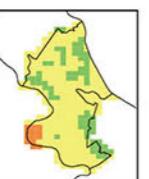
かいこうがたじしん 海溝型地震

海側のプレートが下に動き、大陸側のプレートが引きつけられます。プレートとプレートの間で「ひずみ」ができて、大陸側のプレートが元にもどろうとします。そこで、地震が起きます。「2003年十勝沖地震」(マグニチュード8.0)、「1994年北海道東方沖地震」(マグニチュード8.2)、「2011年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」(マグニチュード9.0、日本で起きた地震の中で一番強い)など

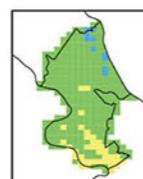


起きる可能性がある3つの海溝型地震

茨城県南部地震
マグニチュード7.3
松伏町の最大震度(一番強いゆれ):6弱
マグニチュード7.3
マグニチュード6弱
これから30年の間に南関東地域(東京や埼玉)でM7級の地震が起きる確率:70%



東京湾北部地震
マグニチュード7.3
松伏町の最大震度(一番強いゆれ):6弱
マグニチュード7.3
マグニチュード6弱
これから30年の間に南関東地域(東京や埼玉)でM7級の地震が起きる確率:70%

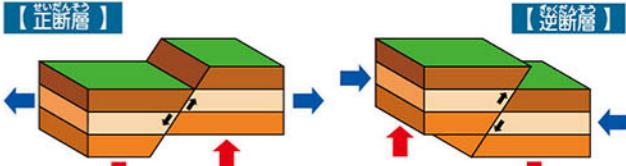


元禄型関東地震
マグニチュード8.2
松伏町の最大震度(一番強いゆれ):6弱
マグニチュード8.2
マグニチュード6弱
これから30年の間に南関東地域(東京や埼玉)でM7級の地震が起きる確率:0%に近い



かつだんそうがたじしん 活断層型地震

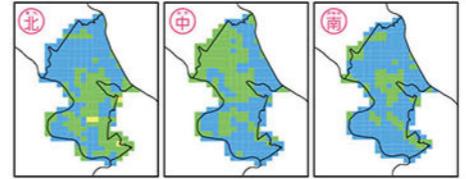
地面の下でプレートが動くことで「ひずみ」ができます。このひずみをなくすために、地震がおきます。前に起きた地震の時にできた断層が地震の中心となります。
「1995年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)」(マグニチュード7.3)
「2004年新潟県中越地震」(マグニチュード6.8)など。



起きる可能性がある2つの活断層型地震

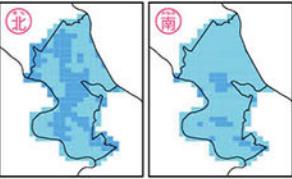
関東平野北西縁断層帯地震

- マグニチュード8.1
松伏町の最大震度(一番強いゆれ):北6弱・中5強・南5強
- 深谷断層と綾瀬川断層で地震が起きると考えました
- これから30年の間に地震が起きる確率:0.008%より低い



立川断層帯地震

- マグニチュード7.4
松伏町の最大震度(一番強いゆれ):北5弱・南5弱
- 新しい地震の研究から考えました
- これから30年の間に地震が起きる確率:2%より低い



マグニチュードと震度

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさの関係に例えることができます。



同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで机の上の明るさは違います。マグニチュードが同じ地震でも、震源(地震の中心)が遠ければ震度は小さくなります。震源(地震の中心)が近いと、震度は大きくなります。

震度6強の被害とは?

松伏町で「茨城県南部地震」、最大震度6強の地震が起きた場合、次に書いてあることがおきます。

震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 家具のほとんどが動く。倒れるものが多くなる。
- 地震に強くない木で作られた建物は、傾いたり、倒れるものが多くなる。
- 地面が大きくわれる。山の岩や石が転がって、山が崩れることがある。



地震ハザードマップの使い方

地震ハザードマップは、地震が起きた時の危ない場所などがわかる地図です。

松伏町の地震ハザードマップは、埼玉県が調べた「埼玉県地震被害想定調査」の結果をもとに、作られました。地震についての新しい情報や逃げる方法を知ることは、とても大切です。

1 地震について知ってください

松伏町で起きたかもしれない地震のことを知ってください。地震のことや、地震の時に起こることを知ることは、とても大切です。

2 逃げる方法を考えてください

松伏町で起きたかもしれない地震のことを知ってください。地震のことや、地震の時に起こることを知ることは、とても大切です。

3 地震が起きる前に用意してください

逃げる時に必要なものを用意してください。家を地震に強い家にしてください。家族と連絡のとりかたを確認してください。地震が起きる前に用意することが大切です。

地震から自分の命を守る

地震は突然、起きます。地震が起きたら、自分の命を守り、あわてずに動いてください。安全に逃げることができます。周りの人を助けることもできます。

命を守る行動を

**地震が
おきました！**



地震の揺れから命を守る「安全行動① - ② - ③」

- ①まず低く… 強い揺れで自分がたおれる前に姿勢を低くしてください
- ②頭を守り… 動かない机やテーブルの下に入ってください。ない場合は腕や物を使って、頭を守ってください。
- ③動かない… 揺れが止まるまで動かないでください。あわてて外に出ないでください。

家や建物の中にいる時

◆揺れを感じたら

自分の体を守る

- 壊れないテーブルや机などの下に入ります。
- 座布団やクッションなどで頭を守ります。
- 揺れが止まるまで待ってください。



火を確認する

- 小さな揺れの時にはすぐに火を消してください。
- 揺れが止まってから、火を全部消してください。
- 逃げる時はガスの元栓を閉めてください。電気のブレーカーを切ってください。



◆揺れが止まったら

家族が大丈夫かどうか確認してください

- 声をかけて家族の確認をしてください。
- 離れている家族とは、地震が起きる前に決めておいた方法で連絡してください（集合場所に集まる、災害用伝言ダイヤルを使う、親せきに知らせるなど）。



近くに住んでいる人が大丈夫かどうか確認してください

- 近くに住んでいる人に声をかけて確認してください。
- 体の不自由な人やお年寄りにはとくに気をつけてください。



出口を確認してください

- 玄関や窓を開けて、出口を確認してください。
- 玄関や窓が閉まらないように、ものを挟んでください。



落ち置いて動いてください

- あわてて外に出ないでください。
- 割れたガラスなどに気をつけてください。家中の中でも靴やスリッパを履いてください。



正しい情報を手に入れてください

- テレビやラジオ、防災行政無線などから正しい情報を知ってください。
- うその話や間違った情報が出ることがあります。気をつけてください。



みんなで逃げてください

- ほかの人といっしょに逃げてください。



出かけている時

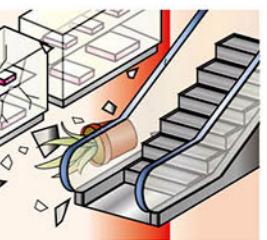
道路（道）

- ブロック塀、自動販売機などの近くは危ないです。離れてください。
- 窓ガラスや看板、壁タイルなどが落ちます。カバンなどで頭を守ってください。



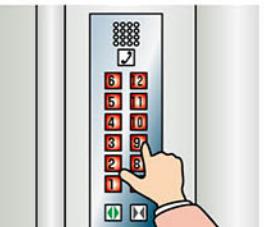
町の中や大きな建物の中にいる時

- 商品の棚から離れてください。柱や壁の近くに行ってください。
- 新しいビルや地下街は、地震に強いです。外には出ないです。
- 店の中では放送や係員の言うことを聞いてください。



エレベーターの中にいる時

- ぜんぶの階のボタンを押してください。止まった階すぐ降りてください。
- エレベーターの中に閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続けてください。非常用電話で助けを呼んでください。



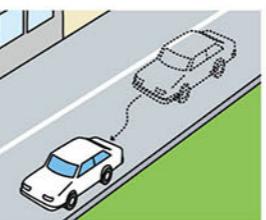
電車・バスに乗っている時

- 地震が起きたとき、電車やバスは急に止まります。危ないので、気をつけてください。
- 座っている場合は体を低くして頭を守ってください。立っている場合は手すりやつり革をしっかりとつかんでください。
- 運転手や乗務員の言うことを聞いてください。



車を運転している時

- スピードを落として、道路の左側に車をとめてください。
- エンジンを切って、揺れが止まるまでは車の中に入いてください。
- 逃げる時は、車のキーはつけたままにしてください。ドアはロックしないでください。窓を閉めてください。



海の近くで地震が起きたら – 津波がくることを考えてください

- 海の近くにいる時に地震が起きた場合は、揺れのほかに、津波に注意してください。とても大切なことです。
- 次の場合はすぐに海から離れて、できるだけ高い場所に逃げてください。
 - ・強い揺れ」「弱くても長い揺れ」を感じた
 - ・「津波警報」「津波注意報」などを見たり、聞いたりした
 - ・津波は何度もきます。後から来る波のほうが高い場合があります。
 - ・「津波警報」「津波注意報」が消えて、安全が確認されるまでは、海の近くには行かないでください。
 - 地震が起きる前に、高いところまでの道を確認してください。「津波避難場所」「津波避難ビル」は、津波がきた時に逃げる場所です。

津波標識

津波注意

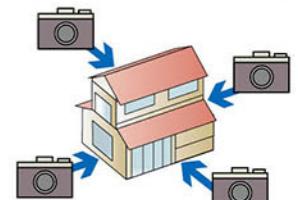
津波避難場所

津波避難ビル

地震の後の行動

倒れたものを片付ける前に、写真に撮ってください。

- こわれた家や倒れたものの写真をとってください。被災証明書（あなたの家がこわれたことを証明する紙）をもらう時や、保険会社からお金をもらう時に使います。写真是スマートフォンなどのカメラでも大丈夫です。出来るだけ詳しく、いろいろな方向から写真をとってください。



被災証明書をもらう

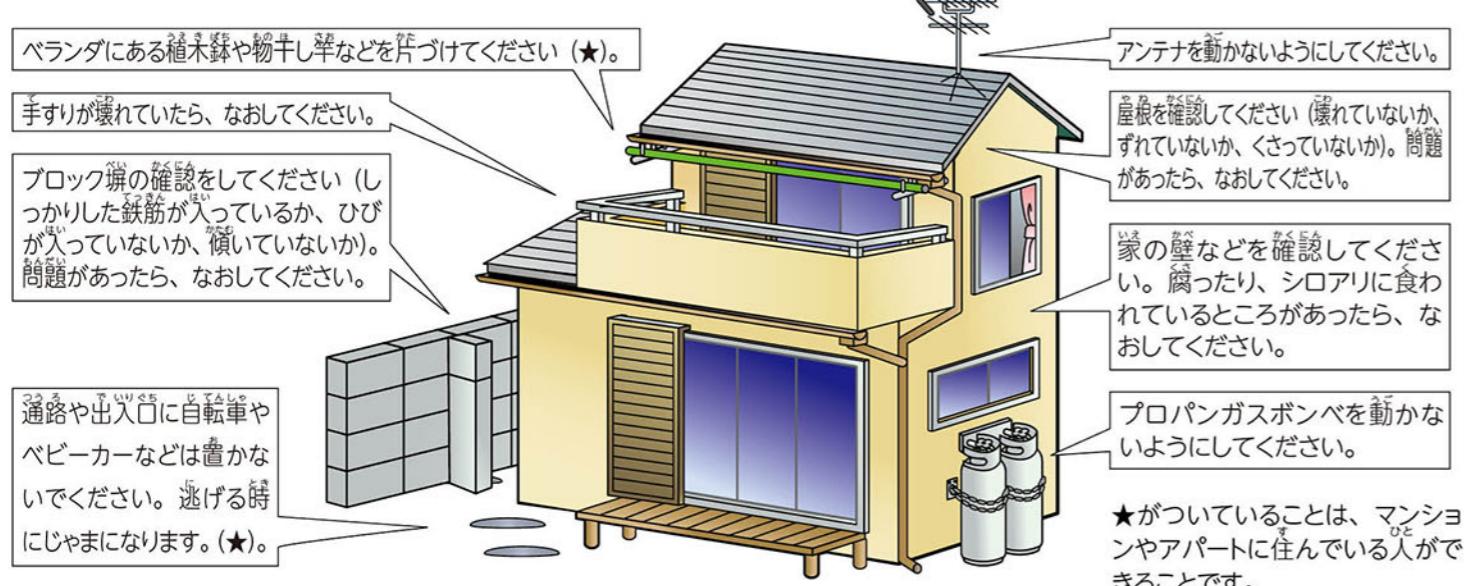
- 被災証明書は、災害であなたの家がこわれたことを証明する紙です。国や町からの支援（助け）を受けるために必要です。
- 被災証明書はすぐもらえないかもしれません。申し込みをした後に、町の職員などが確認をするので、時間がかかります。できるだけ早く申し込みください。



地震が起きる前に準備してください

地震が起きた時に自分や家族の命を守り、地震のあとも生活ができるように、地震が起きる前に家の点検や修理をしてください。

家で準備すること



家の中で準備すること

前の地震では、家具が倒れてケガをした人がいました。倒れたものや割れたガラスがあると、避難所(逃げどころ)で生活をしなければなりません。地震が起きる前に、安全な部屋を作ってください。



松伏町では、昭和56年(1981年)より前に建てられた木造住宅(木で作った家)が、地震に強い家か調べています。

地震に対する家の強さの基準は、昭和56年にきびしくなりました。阪神・淡路大震災では、それより前に建てられた家や建物がたくさんこわれました。被害を少なくするためには、地震に強い家にすることが大切です。松伏町では、昭和56年より前に建てられた木造住宅(木で作った家)に住んでいる人は、0円で地震に強い家か調べることができます。地震に強い家を増やしています。

【問い合わせ】

松伏町役場新市街地整備課開発建築担当
電話 048-991-1858・1806

※建物の作りや広さによっては、調べることができない場合があります。

家具が倒れないようにしてください

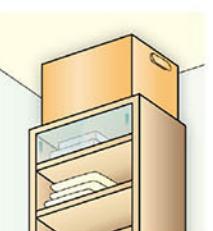
大きな地震では、家具が倒れることがあります。倒れた家具で、逃げるのが遅くなったり、けがをすることがあります。家具にL型の金具を付けて、倒れないようにしてください。アパートやマンションは、壁に穴を開けることができません。つっぱり棒や粘着性マットなどをかわりに使ってください。

◆家具が倒れないために、すぐにできること

- 家具の下に滑り止めマットをしく。重いものを棚の下に、軽いものを上にします。

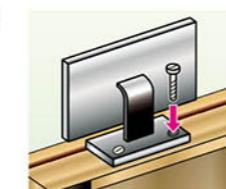


- 家具と天井の間に、弱粘着性のマットをはさんだダンボール箱などを置く。天井と段ボール箱の間は2cmより小さくする。

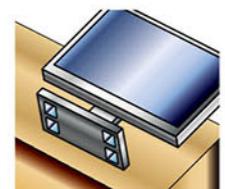


◆家具を倒れないようにする方法

- テレビとテレビ台をボルトなどでとめる



- テレビとテレビ台を器具やマットで動かないようにする。



◆タンスなどの大きい家具

- L型の金具やベルト式器具などで家具と壁をとめる。



- ストッパー式器具で家具を壁側にかたむける。



◆家具を倒れないようにする方法

- かさねて使う家具は、連結固定器具でひとつにつなげる。



- 引き出しには、器具を取りつけて、地震の時に開かないようにする。



参考: 総務省消防庁ホームページ「地震による家具の転倒を防ぐには」 <https://www.fdma.go.jp/publication/database/kagu/>

地震のあとの火事を防ぐ

地震の時の火事は、電気から火が出ることが多いです。

地震で電気が止まって、次に電気がつく時に、火が出ることがあります(通電火災)。逃げるときは必ず電気のブレーカーを切ってください。

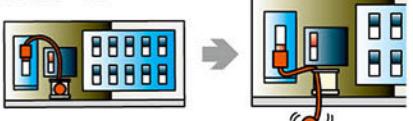
感震ブレーカーは、強い揺れがあった時に、自動的にブレーカーを切って電気を止める機器です。「通電火災」を防ぐことができます。

感震ブレーカーには、右に書いてある形(分電盤タイプ、簡易タイプ)のほかに、コンセントで電気を切る形があります。家に合わせて選んでください。感震ブレーカーをつける時は、非常用電灯(地震などで電気が止まった時に明り)をつける必要があります。

分電盤タイプ



簡易タイプ



前に起きた地震から学ぶ<阪神・淡路大震災の場合>

阪神・淡路大震災では、けがをした人の原因の約46%が家具などが落ちてきたからでした。強い地震では、大きい家具などが動いたり、倒れたりします。窓ガラスが割れて飛んできます。地震の時だけを防ぎ、逃げる道を作るために、家具などが倒れないようにしてください。

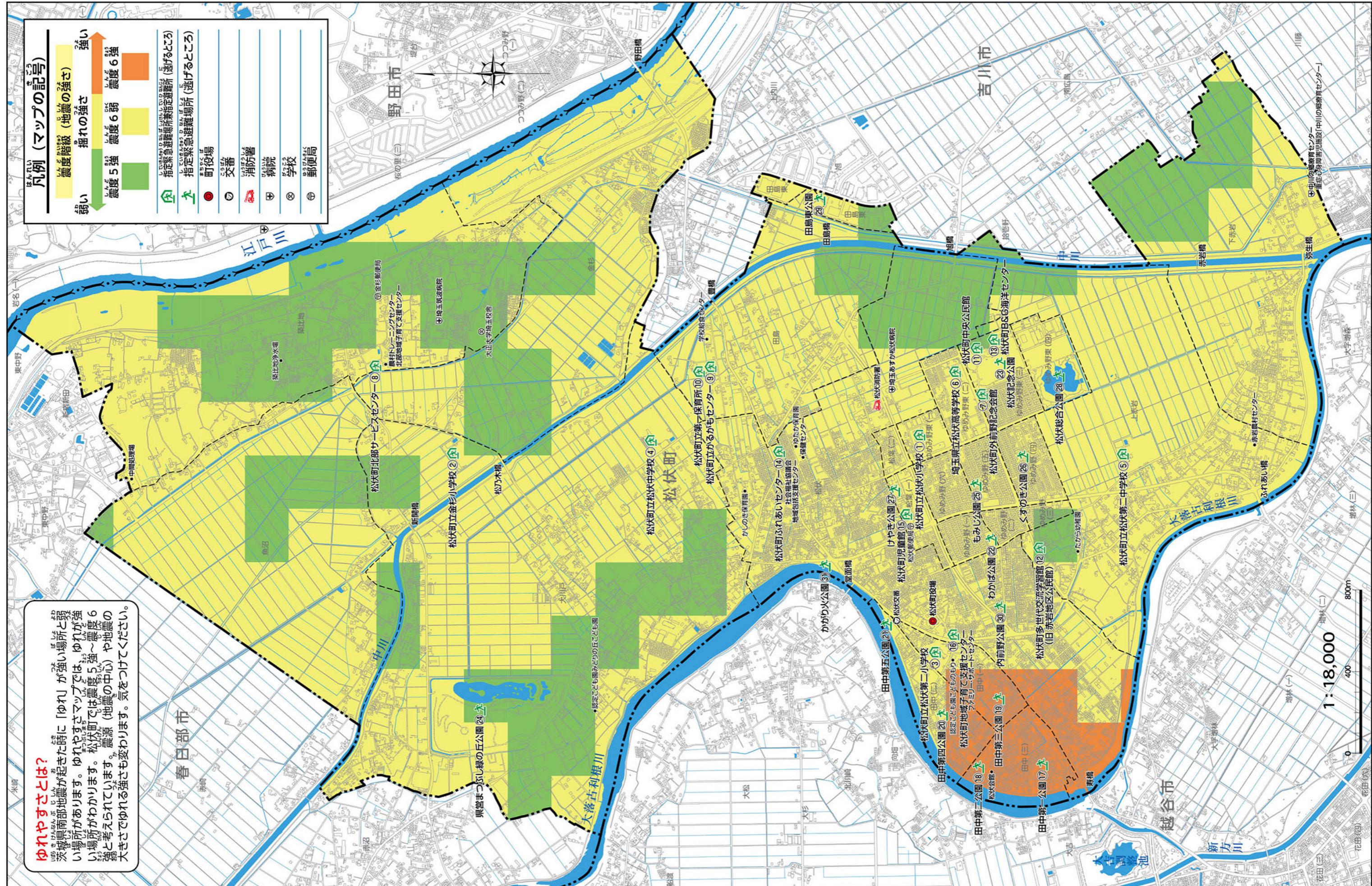
阪神・淡路大震災でけがをした人の原因



日本建築学会「阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書」より

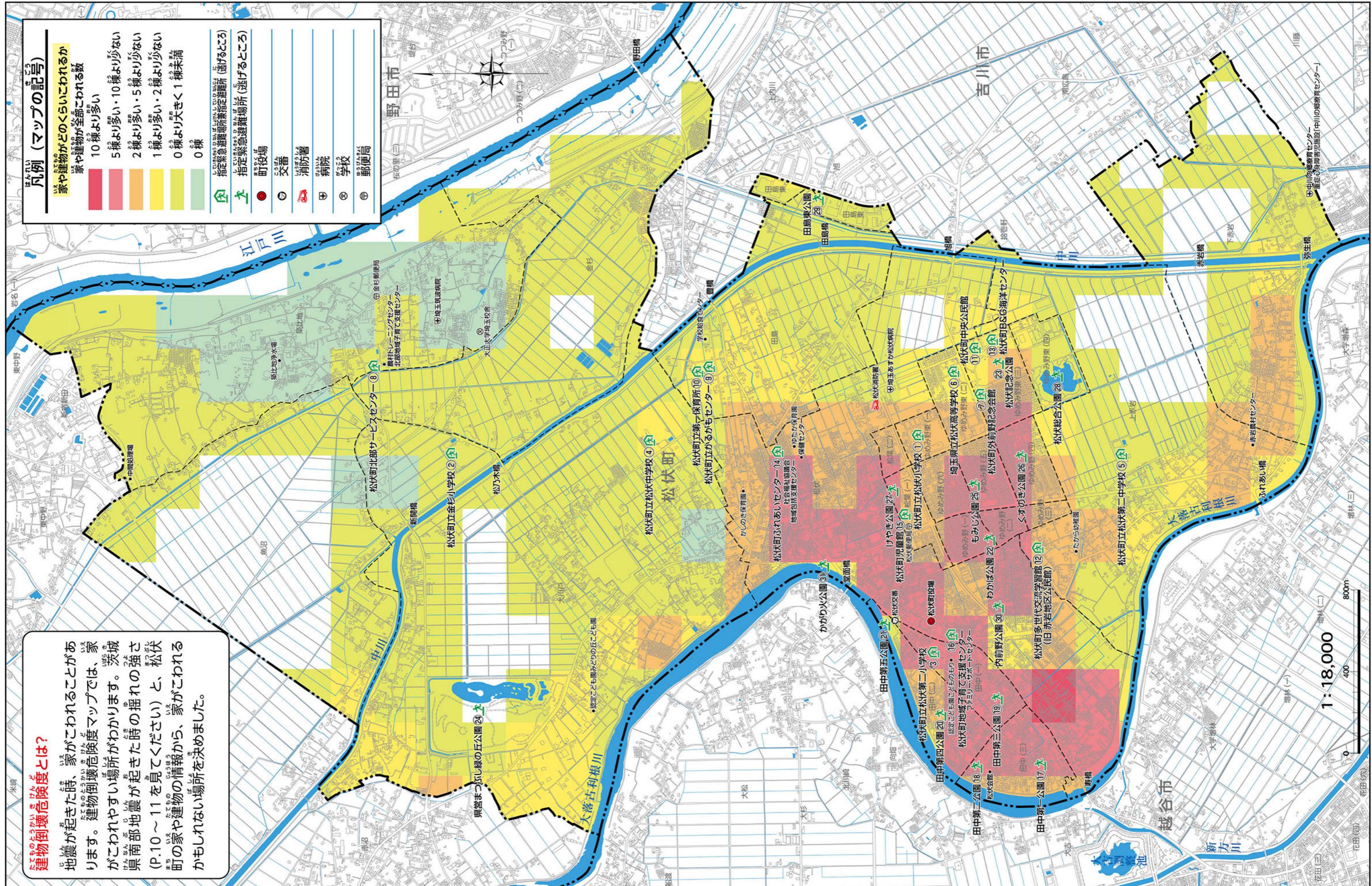
ゆれやすさマップ

じしん 地震のこと



たてものとうかいきけんど 建物倒壊危険度マップ

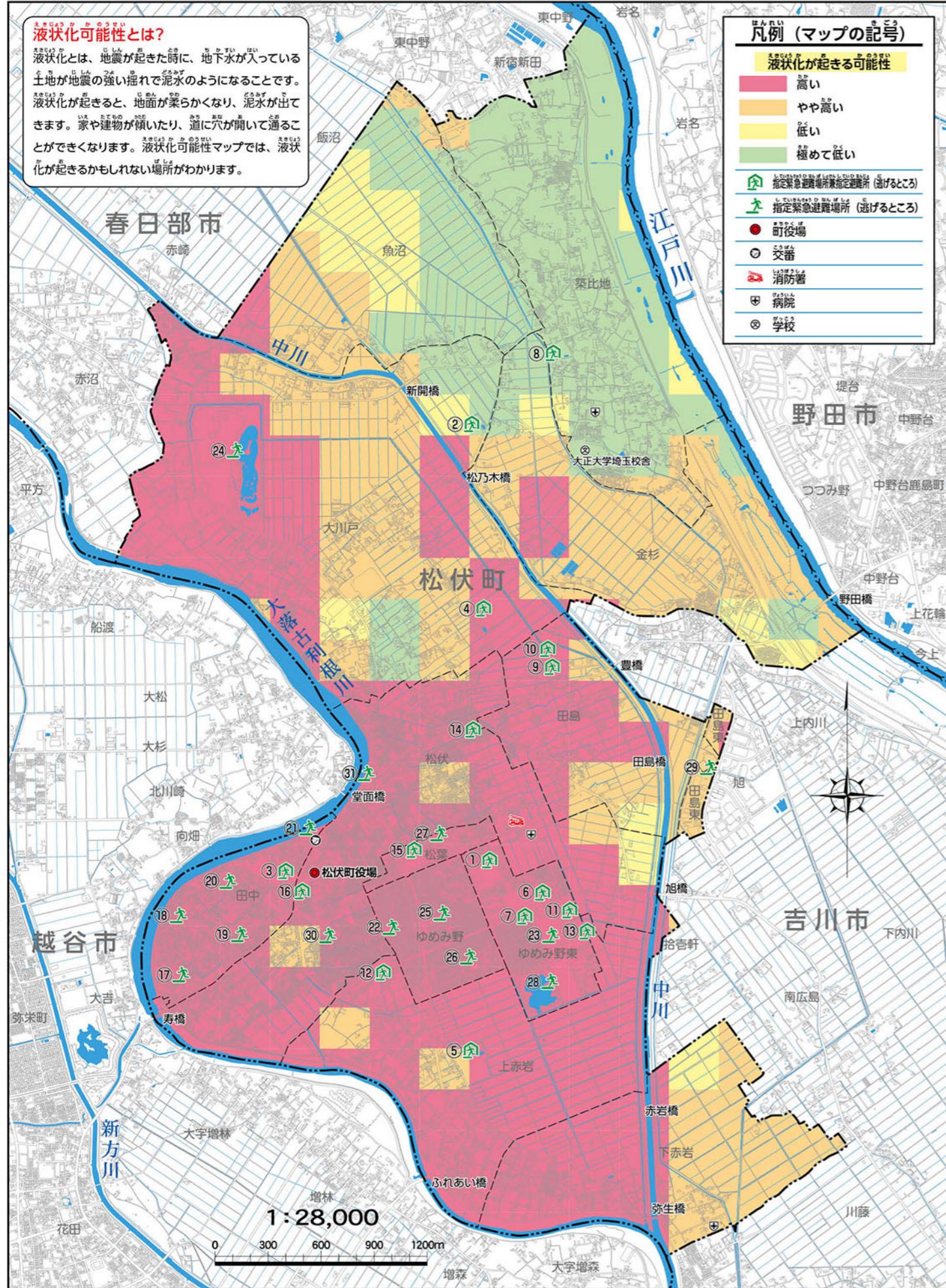
じしん 地震のこと



建物倒壊原因とは?

地震が起きた時、家のことがわかれることがあります。建物倒壊危険度マップでは、家がこわれやすい場所がわかります。県南部地震が起きた時の揺れの強さ（P.10～11を見てください）と、松伏町の家の建物の情報から、家のこわれるかもしない場所を決めました。

液状化可能性マップ



震度(ゆれる強さ)とどのようなゆれが起きるか



出典: 気象庁リーフレット「その震度 どんなゆれ?」より一部抜粋